

橋のない川2019

～自分に負けるな～

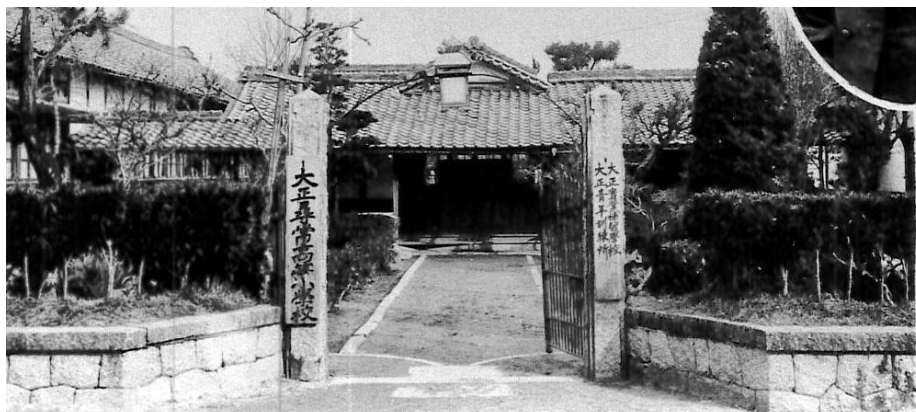
～ナレータの言葉より～

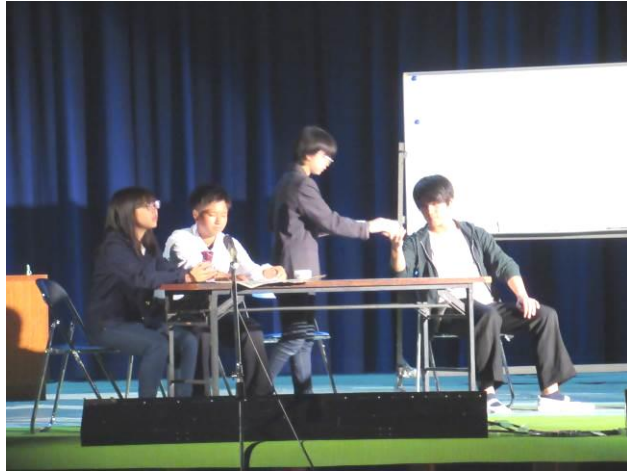
私たち、3年生部落研メンバーは夏休み前に集まり、今年の大中祭ではどの内容で劇をするのか話し合いました。「去年の先輩達は狭山事件、一昨年先輩達は結婚差別を題材にした劇をしはったよな。私らは何をしようか・・・」という問いかけに「小林の水平社の劇をその前の年にやってはるのを見たけど、あの劇をやるのは？こんな場面があって・・・こんな登場人物がおって・・・」と説明が始まりました。そして、「小林水平社か、校区の中の話やし、ええやん、それやろうよ！」と意見が一つにまとまり、今回の劇が決まりました。



さてその劇の内容についてです。社会科の教科書にも載っている全国水平社。その発祥の地が御所市であることはみなさん、知っておられると思いますが、それではこの水平社運動にかかわる有名な小説をご存知でしょうか？

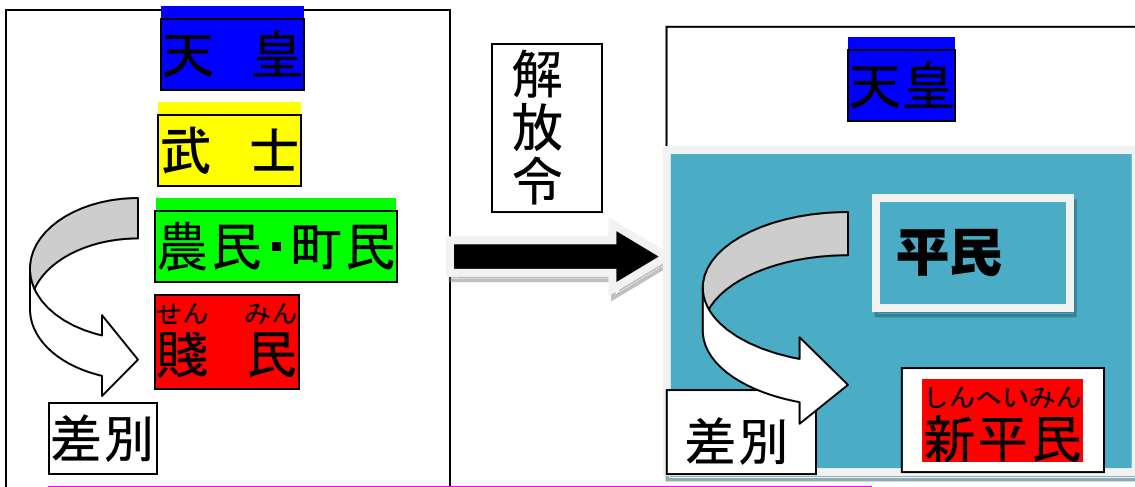
その小説の題名は「橋のない川」。原作者の住井すえさんは奈良県田原本町出身の人です。過去3回映画にもなり、大きな反響を呼んだこともあります。この小説のモチーフになったのが大正小高等小学校差別事件。今からおよそ100年前の1922年、元号で言えば大正11年、当時の大正高等小学校で起こった事件です。この劇では大正11年のこの事件を現在風に再現して上演します。





〔江戸時代〕

〔明治時代になり・・・〕



※部落差別の構造は変わらなかった

<スポット>

2シーン 帰り道(幕前)

小林の子A(石田) あー、もう俺、ほんまに耐えられへんわ。明日から、不登校するわ。

小林の子B(中居) 不登校て、俺ら、学校たまに来るだけやん。不登校とか言われへんやん。

小林の子C(谷口) それは、家のぞうり作り手伝わんとあかんからやん。どうせ高校もいかれへんし、行っても続ける自信ないし、それやったら仕事して、金かせぐ方がうちには合うてるわ。

小林の子D(橋本) けど、あいつらほんまにむかつくなあ。よってたかって、おれらのことアホにしやがって！あいつらには負けたないわ、うちのおとんもいつもいうてる、「けんかに負けるな、なめられたらあかん。」って。

小林の子A(石田) うちの家もそうや…おれ、昨日もう学校いきたくないって家でいうてん、そしたらうちのおとん、「負けるな、ここであきらめたらあかん、学校行け」って、…言うねん。

小林の子B(中居) うちのおばあも、同じことばかりいうてる、毎晩ぞうり編みながら「勉強だけはしっかりせなあかん、おまえらの仕事は勉強することやで。学校いらん、勉強しんどい、ていうて負けてたらあかん…、おばあらと同じ苦労だけはさせたないから、」…これ口癖や。いうてることはわかるけど、もうええかげん、し

んどなるわ……。

小林の子D(橋本)そうか……。いっしょやな……。親に心配かけたないし、勉強せなあかんこともわかってる、せやから今日も遅刻はしたけど、学校へ行ったんや……。

米田富(石田)なるほど、そういうことだったのですね。あなたたちがやらはった努力、それ自体はまちがってません。けれど、あんたらの根性はまちがっている。努力の目的がまちがっているんや！！

青年A(阪口)俺らの根性？……

青年B(河合)努力の目的？……

水平社(中居)当然、水平社も部落民に努力を呼びかけています。しかし、その努力はまわりの人に受け入れてもらうための努力ではありません。「どうか差別しないでください」と世間をお願いするための努力ではありません。

青年C(青本)そしたら何のために努力をするんですか？

水平社(中居)それは「誇り」のためです。

青年A(阪口)「誇り」……むずかしいですねえ。

水平社(中居)簡単に言えば「自分に自信をもつ」ということです。私たち、部落のものはこれまでの差別の中で、自分で自分をレベルの低い人間やと思い込んでしまっているのではないですか？

青年B(河合)そら毎日、差別されてたら、俺らってあかん人間なんかなあって思ってしまうで。

米田富(石田)その通りです。だから多くの部落の人は自分の境遇にあきらめてきました。あきらめたらあきません。

青年C(青本)そんなもんわかってるがな。せやからうちらも努力しようて言うてきたんや。

米田富(石田)改善事業の人も、水平社も「あきらめたらあかん」というのは同じです。人間は努力をやめたらあきません。

青年A(阪口)せやけど、「無駄な努力」って言葉もあるじゃないですか。

米田富(石田)努力に無駄も無駄じゃないありません。ただ、努力の意味は大きくちがいます。

京太郎(山村)どこがちがうんや？

水平社(中居)改善事業の人たちは「いじめはいじめられている人が悪い。だからいじめられている人が努力して自分を変え、いじている人や社会に受け入れてもらおう」という考えです。

米田富(石田)しかし、水平社は、いじめる人が悪い。それだけじゃなく、そういういじめを作り出している社会も悪い。そこでまず、いじめられている私らが努力して自分を

強くして、そんなまちがった社会を変えていこう」という考えです。

(ホワイトボードに貼りながら説明していく) ← ※横幕に拡大版を写す。

改善事業の考え・・・いじめられている人が努力して自分を変え、受け入れてもらう。

水平社の考え・・・いじめをしている人・いじめをつくり出している社会が悪い

↓だから

自分をきたえて、まちがった社会を変えていこう！

京太郎(山村)なるほど。差別の社会に受け入れられるか？差別の社会を変えていくか？のちがいやな。

水平社(中居)そうです。みなさん。これを読んでください。私たちのめざすものを書いた水平社宣言です。

京太郎(山村)水平社宣言？